

# 平成24年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ ニシダ トモコ  
氏名 西田 友子

研究期間 平成24年度

研究課題名 女性のやせ体型および体重減少と鉄栄養指標との関連

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	西田友子	看護学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

女性のやせは、取り組むべき課題であると認識されており、厚生労働省は健康日本21のなかで、20歳代女性のBMI18.5 kg/m<sup>2</sup>未満のやせを15%以下に減少という目標を設定し、対策をうながしている。しかし実際には、やせ女性割合の改善はほとんど進んでいない。研究の面から見ても、やせ女性を対象とした健康障害を示す研究としては、摂食障害患者を対象とした過度の痩せ状態の研究はいくつかあるが、一般住民を対象とした、地域保健分野でのやせ女性の健康問題については、ほとんど研究がなされていない。そこで、女性のやせ体型と栄養問題との関連を検討するために、本研究では鉄栄養に注目し、女性のやせ体型および体重減少と鉄栄養指標との関連を明らかにすることとした。

鉄栄養不足・貧血症状で悩まされる女性は多く、鉄栄養状態を把握し、やせ体型や体重減少などの要因との関連を明らかにすることは、女性の栄養問題や貧血予防にとって重要な研究成果となる。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究では愛知県A市に協力を依頼し、2012年10月にA市が実施した18-39歳対象の健康診断を受診した女性を対象に調査を行った。調査項目は、健診結果(問診、身体測定、血液検査等)と血液追加検査(フェリチン、血清鉄、アルブミン、プレアルブミン、白血球分画像)およびアンケート(妊娠、授乳、体重変動、体型認識等)である。健診受診申込の際に、研究の説明を行い、研究協力が得られた女性にアンケートと血液追加検査を実施した。健診受診女性243人のうち、協力同意が得られたのは231人(95.1%)である。解析には、現在治療中の疾患がある女性、妊娠中の女性を除外した203人(平均年齢34.3歳)の結果を用いた。

データ解析について、体型はBMIにより、痩せ(BMI<18.5 kg/m<sup>2</sup>)、普通(18.5≤BMI<25 kg/m<sup>2</sup>)、肥満(BMI≥25 kg/m<sup>2</sup>)と区分し検討した。体重変動はアンケートによる、3ヶ月前と比べ体重が減少、変動なし、増加の回答を用いて、鉄栄養指標との関連を検討した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

今回対象とした女性の BMI は平均 20.9 kg/m<sup>2</sup> (標準偏差 2.9kg/m<sup>2</sup>) であり、BMI<18.5 kg/m<sup>2</sup> の 21.4%が痩せ体型であった。肥満体型(BMI≥25 kg/m<sup>2</sup>) は 7.9%であった。

本研究では、鉄栄養状態の指標としてフェリチン・血清鉄、一般的栄養評価に使用されている項目として、アルブミン・プレアルブミン・リンパ球数、健康診断項目から貧血を把握する指標としてヘモグロビン・ヘマトクリットについて検討した。これら栄養指標の平均と体型を比較した結果、プレアルブミン、リンパ球数、ヘモグロビン、ヘマトクリットは痩せ体型であるほど低い値であったが、フェリチン、血清鉄では体型との関連はみられなかった。WHO の貧血の基準値を参考にヘモグロビン 12g/dl 未満、ヘマトクリット 36%未満を低値群としたところ、全体でヘモグロビン低値群は 18.7%、ヘマトクリット低値群 7.9%であった。体型と比較したところ、痩せでヘモグロビン低値の割合が高い傾向があり、さらに BMI17.5 kg/m<sup>2</sup> (全体の 5.4%) の過度の痩せでは 36.4%がヘモグロビン 12g/dl 未満の低値であった。

体重変動と血液検査結果を比較した結果では、鉄栄養状態の指標、一般的栄養評価指標のどれも明らかな関連がみられなかった。

次にフェリチンに注目し、下位 25%をフェリチン低値群とし自覚症状等と比較をしたところ、「目まい」や「目のかすみ」「休みたい」などの訴えが低値群で多い傾向がみられた。

以上より、本研究では、痩せ体型の鉄栄養不足についてフェリチンや血清鉄とは明らかな関連がみられなかったが、ヘモグロビンのような貧血評価や、プレアルブミン・リンパ球数のような一般的栄養評価指標では痩せ体型での低下傾向がみられ、痩せ女性における潜在的栄養問題が考えられた。次にフェリチンに注目した結果では、フェリチンの低下と身体的症状に関連がある様子がみられた。フェリチンが低値でありながら、ヘモグロビンやヘマトクリットなど貧血を評価する通常の健診項目は正常である女性は多くいた。今回の結果から、通常の健診では鉄栄養不足に気づくことなく、しかし自覚症状としては何かしら問題を感じている女性がいることが示唆された。今後さらに女性のフェリチン低値と健康問題について解析を行っていききたい。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①女性	②やせ	③体重減少	④栄養状態
⑤フェリチン	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

本研究の成果は、2013年10月に三重県津市で開催される日本公衆衛生学会において発表予定である。また、今後は、質問票調査で得られた生活習慣や体型認識等のデータも含めて統計解析を行い、論文として公表できるように準備していく予定である。